



変化するニーズに迅速に対応し 新たな価値を生み出す VersaStack™ ソリューション

ハイライト

シスコと IBM は、2014 年 12 月 5 日（米国現地時間）に協業ソリューションとなる「VersaStack」を発表しました。

VersaStack は、シスコのサーバ ソリューションである Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) および関連コンポーネントと、IBM の仮想化ストレージシステム IBM Storwize V7000 をベースとした統合インフラストラクチャとなります。

シスコ、IBM 両社の責任者が、VersaStack の日本市場における取り組みと、このソリューションの特長、もたらすメリットをご紹介します。

VersaStack 登場の背景

ビジネス アプリケーションの導入やサービスの提供を迅速に行うための IT インフラストラクチャとしてデータセンターの利用は増加を続け、その構築方法もかつてのようなアプリケーション ベースのサイロ型から、共有リソースを柔軟に割り当てることが可能なクラウド コンピューティングへとシフトしています。クラウド、ビッグデータ、分析、モビリティといった要因によってデータセンターにも進化が求められるなか、企業は総所有コスト (TCO) の削減、収益の増大、リスクの低減という課題を解決しながら、効率性や汎用性に優れた IT インフラ=ビジネスの基盤を確立しようとしています。

近年市場が拡大している「統合インフラストラクチャ」（コンバージドインフラ）は、この流れを支えるものの 1 つです。コンピューティング、ストレージ、ネットワークという必要なコンポーネントがあらかじめ検証済みの構成として提供され、従来のような個別の調達、構築を不要とします。2014 年 3 月に発表された IDC の調査^{*}では、この統合インフラの市場は 2012 年から 2017 年までの 5 年間で年平均成長率 (CAGR) 33% の増加、2013 年の 50 億米ドルから 2017 年には 140 億米ドルまで成長すると予測しています。統合インフラを活用することで、企業は構築や導入、管理の簡素化というメリットを得て、ビジネスをさらに加速させることができます。

こうした背景の下、より優れたデータセンター、完成度の高いクラウド サービスを仕上げるために必要なコンポーネントを持つ、シスコと IBM が共同開発したソリューション。それが「VersaStack」です。

※IDC Worldwide Integrated Systems 2014-2017 Forecast



両社の戦略が符合して生まれた 画期的なソリューション

Cisco UCS は 2014 年に北米で 1 位、グローバルで 2 位のシェアを有しており*、2009 年の発表当時には予想もしていなかった飛躍的な成功を収めています。サーバ市場に大きな変革をもたらしているシスコのイノベーションのフレームワークは、優れたテクノロジーの獲得、自社 R&D への積極投資、そしてさまざまな企業とのパートナー戦略という 3 つの柱があります。今回発表した VersaStack はこのパートナー戦略に基づくもので、お客様にご提供できる選択肢や付加価値を増やしていくための重要な取り組みです。15 年以上にわたってアライアンスを築いてきた IBM と、さらに強固な連携を行うことで実現できた画期的なソリューションであり、クラウドやデータセンターの分野における両社の戦略が非常に符合した成果の 1 つでもあります。

IBM は非常に豊富な製品、ソリューションを持つグローバルカンパニーであり、日本国内ではオープンプラットフォーム向けのオールフラッシュストレージでトップシェアを誇っています。エンドツーエンドですべてのサービスを提供している懐の深さ、営業力の強さ、カバレッジの広さと歴史は、シスコにもとても良い刺激になるでしょう。また、得意とする分野が異なる両社がお互いのカバレッジを拡大し、新しいアイデアや価値を生み出しながら、これまでにないソリューションをお客様にお届けできるという期待と確信につながっています。すでに日本以外では VersaStack の実績が出始めており、日本でも早期の立ち上がりを期待しています。



シスコシステムズ合同会社
執行役員
データセンターバーチャライゼーション事業担当

俣雄一氏

※x86 Blade Server Market において
出典：IDC Worldwide Quarterly Server Tracker, 2014Q3, December 2014,
Vendor Revenue Share

VersaStack は、販売パートナー様を中心に展開していきます。VersaStack を取り扱うパートナー様が増えれば、お客様は優れたソリューションの選択肢が増えます。同時に、パートナー様にとってもお客様への提案の幅が広がり、新たなビジネス機会の創出につながるでしょう。シスコ、IBM ともにお客様を熟知した実力あるパートナー様が多数いますので、両社のパートナーシステムを最大限に活かして、さらなる市場の活性化を促していきたいと考えています。

ベストなパートナーとともに シンプルな解決策、新たな価値を提供

IBM は現在「クラウド」「データ」「エンゲージ」という 3 つの戦略を掲げ、ハードウェア、ソフトウェア、サービスをお客様にトータルなソリューションとしてご提供しています。ストレージについても研究開発やテクノロジーの獲得を積極的に行い、リアルタイム圧縮や仮想化をはじめとする IBM 独自の技術を多数保有しています。データの質と量は大きく変わり、ストレージも単なるデータの置き場から進化を遂げて、求められる要件も変わってきました。VersaStack は、そうした市場の要求に対して、できるだけシンプルな解決策、新しい価値をご提供したいと考え、シスコとの 15 年以上にわたるパートナー関係から生み出された統合インフラストラクチャソリューションです。IBM のストレージ事業も、お客様や市場のニーズを踏まえて IBM ストレージとパートナーソリューションとのカップリングを拡充しています。

Cisco UCS が登場したとき、従来の x86 サーバのアーキテクチャにネットワークポロジの進化を重ね合わせることで次世代のコンピューティングを成し遂げようというコンセプトに驚くとともに、とても大きな可能性を感じました。VersaStack は IBM のストレージ仮想化技術によって他社製を含むさまざまなストレージ機器を取り込めるので、構成の多様性を確保するという新たな魅力を Cisco UCS に追加できるでしょう。両社共通のディストリビュータによる技術検証では、これまでにない素晴らしい結果が出ています。第三者からも良い評価を受けたことで、あらためて自信を持ってお客様にお届けできるものになったと実感しています。

業界、データの在り方、ソリューションが大きく変わるなかで、現状を打破し、新しい価値を提供して前に進むため、VersaStack はお客様や、インフラストラクチャソリューションを提供しているシステムインテグレーター様にとって、大変良いきっかけになると期待しています。



日本アイ・ビー・エム株式会社
システム製品事業本部
ストレージセールス事業部
事業部長

波多野 敦氏



安心して利用できる リファレンス環境

- VersaStack は、Cisco UCS と IBM ストレージを組み合わせたリファレンス アーキテクチャとして開発されたものです。Cisco Validated Design (CVD) として技術ドキュメントも用意しており、お客様、パートナー様ともに安心してご利用いただけます。仮想化環境の運用性、ストレージとの相互接続検証など、クラウドやデータセンターの分野で課題を抱えている方々に確実性や安心感というメリットをもたらすでしょう。パートナー様は、このリファレンスを 1 つの参考として役立つことで、差別化に向けた新しい付加価値の創出に注力できます。
- クラウドやサーバ統合で最後に問題になるのがストレージです。IBM Storwize は、ストレージ仮想化における 10 年以上の実績があり、安心して利用できます。また、すでに 150 種類以上の各社ストレージ製品との相互接続性が担保されており、IBM Storwize の配下に接続すれば Cisco UCS でマルチベンダーのストレージを容易に利用できるといったメリットももたらします。

インフラ全体を可視化して 柔軟かつ容易に運用

- 管理ツールの Cisco UCS Manager が備えるサービス プロファイル機能で、サーバ本体、サーバ アクセス ネットワーク、そして IBM Storwize とそれを介して利用する多様なストレージ アクセスを一元的に管理できます。利用するストレージ（データの配置場所）をスケジュールで切り替えるといった運用も、サービス プロファイルの定義などで容易に行えます。
- 統合管理ツールの Cisco UCS Director で、GUI による容易なワークフロー設計、テンプレートの作成が行えます。Cisco UCS 上の仮想化基盤（ハイパーバイザ）の管理はもとより、ベアメタル サーバ環境、スイッチ、他社ストレージのプロビジョニングも可能で、仮想/物理を問わないプロビジョニングの自動化、他社製品を含めたデータセンター（クラウド サービス）インフラ全体の管理をトータルに実現します。
- IBM のリアルタイム圧縮技術 IBM Real-time Compression により、アプリケーション性能を犠牲にすることなくデータを書き込む前に最大 5 倍の圧縮が可能で、ストレージの容量効率を大幅に高めます。この機能は、IBM Storwize を介して接続される一般的なストレージ

機器にも有効で、Storwize で圧縮したデータの書き込みが可能で、関連技術は IBM が特許を取得しており、他社には実現できない特長の 1 つとなります。VersaStack でもこれらのメリットをすべて享受できます。

新たな分野にも迅速に対応できる先進性

- Cisco UCS は、クラウドや、ビッグデータと呼ばれる分野で多く求められるスケールアウト型の環境に適したアーキテクチャとなっています。容易なスケールアウト、多様なコンポーネントの一元的な管理を実現しながら、シンプルなシステム構成を保てることは多くのお客様に評価されているポイントです。VersaStack では、ここに IBM のストレージ技術が加わることで、より高い柔軟性と適用性を実現しています。これまでとは異なるニーズ、分野にも迅速に対応できるようになり、ビジネスの可能性をさらに拡大します。
- フラッシュストレージの利用形態は、いわゆる IT 業界で想定されていたものとは異なるケースが増え、新たな課題も生じています。統計分析を高速化する場合でも、最初から膨大な容量が必要なことは少なく、データが集まり、増えていくとともに要件が変化し、高速性も求められていきます。そうした変化に柔軟かつ迅速に対応できるように、シスコのネットワーク技術と IBM のストレージ技術を組み合わせたソリューションとして VersaStack は設計されています。ビジネスを前に進めていくための最初のシステムとして、迷うことなく導入できるソリューションです。



シスコシステムズ合同会社
データセンター/バーチャライゼーション事業
部長

石田 浩之 氏



日本アイ・ビー・エム株式会社
ストレージセールス事業部 ビジネス開発
ソリューション部長
システムズ&テクノロジー・エバンジェリスト

佐野 正和 氏

VersaStackは、以下のコンポーネントで構成されています。

- Cisco Unified Computing System (Cisco UCS)
- Cisco Nexus シリーズ データセンター スイッチ
- Cisco MDS 9000 シリーズ ファブリック スイッチ
- Cisco UCS Director：統合管理ツール
- IBM Storwize V7000 仮想化ストレージ システム



詳細情報

IBM とシスコによる最新のデータセンターに向けたネットワーク構築のサポートについては、以下を参照してください。

- www.cisco.com/go/versastack (US)
- www.ibm.com/cisco (US)
- <http://www.redbooks.ibm.com/redpieces/abstracts/sg248105.html> (US)



シスコシステムズ合同会社
〒107-6227
東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー
<http://www.cisco.com/jp>
www.cisco.com/go/ibm (US)



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町 19-21
www.ibm.com/jp
www.ibm.com/cisco (US)

©2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved. Cisco, Cisco Systems、および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)
IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Real-time Compression および Storwize は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml (US) をご覧ください。
その他の会社名、製品名、およびサービス名は、第三者の商標またはサービス マークです。

この資料の記載内容は 2015 年 1 月現在のものです。この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。